

International Baccalaureate (IB) をちょっぴり紹介 一人ひとりの多様性が認められる国際バカロレア教育！



国際バカロレア (IB) 「関心校 (Interested School)」としての 1 年間の準備期間を経て、詫間小学校 (3 月 28 日) と詫間中学校 (6 月 26 日) は、それぞれ PYP (初等教育) と MYP (中等教育) の「候補校 (Candidacy School)」に認められました。これから約 2 年間の試行授業を通して「認定校 (Authorized School)」になることを目指していきます。

1968 年にスイスのジュネーブで始まり、世界 162 か国 5,800 校以上の学校で採用されている IB は、すばらしい教育制度です。以下は、IB のすべての資料の冒頭に掲載されている IB Mission Statement (IB の使命) です。

IB Mission Statement

国際バカロレア (IB) は、多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する、探究心、知識、思いやりに富んだ若者の育成を目的としています。この目的のため、IB は、学校や政府、国際機関と協力しながら、チャレンジに満ちた国際教育プログラムと厳格な評価の仕組みの開発に取り組んでいます。

IB のプログラムは、世界各地で学ぶ児童生徒に、人がもつ違いを違いとして理解し、自分と異なる考えの人々にもそれぞれの正しさがあり得ると認めることのできる人として、積極的に、そして共感する心をもって生涯にわたって学び続けるよう働きかけています。

わたしが惚れ惚れしている下線部には、3 つのメッセージが込められています。

- 1 主体的に学び続ける姿勢 (Lifelong learning)** …… 従来の日本の学校教育は、知識の定着に重きを置いてきました。「テストで正解を出すこと」がゴールになりがちで、学びを自分の人生にどう生かすかという視点が弱かったと思います。
- 2 多様な価値観の受容 (Different perspectives can also be right)** …… 日本の教育は「正しい答えはひとつ」という意識が強く、暗記中心の評価方法が多かったようです。IB では、「異なる意見も正しいかもしれない」という発想を大切にし、探究学習 (Inquiry-based learning) を推奨しています。グローバル社会では、多様性を受け入れ、自分の意見を持ちながら他者の立場も尊重する力が不可欠です。実生活には正解が複数あります。
- 3 他者への共感と尊重 (Compassion)** …… 日本では、相手の考えを深く理解しようとする対話スキルは十分に育てられていませんでした。IB では、異なる背景を持つ人々と対話を通して共感し、協働して課題を解決する力を重視します。

先行きが不透明で将来の予測が困難な時代を生き抜けるのは、「正しい答を覚えているだけの人材」ではなく、「自ら問いを立て、考え、協働しながら解決策を見つけようとする人材」です。IB の象徴 (目標) とされている IB Learner Profile (IB の学習者像) は、IB mission statement を具現化したものです。でもこれらは、学習者の姿だけではなく、これからのわたしたちに必要な「人としての在り方」と考えることができます。IB は、地球上のどこでも生活できる「真のグローバル人材」を育てる「全人教育」なのです。

IB Learner Profile

(探究する人) Inquirers
(知識のある人) Knowledgeable
(考える人) Thinkers
(対話する人) Communicators
(信念をもつ人) Principled

Open-minded (心を開く人)
Caring (思いやりのある人)
Risk-takers (挑戦する人)
Balanced (バランスのとれた人)
Reflective (振り返りができる人)